

気になる眼のあれこれ

～眼科コラム～

聖隷沼津病院 眼科検査室

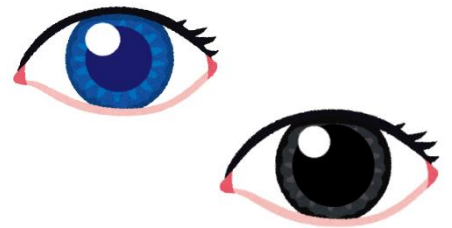
緑内障ってなんで“緑”なの？

緑内障の言葉は、古代ギリシャのヒポクラテスが「地中海の海の色のように青くなり、やがて失明状態になる」と急性緑内障のことを書物に記述している事に由来しています。



地中海の海の色のように青くなり、やがて失明状態になる

瞳の色が青い人が急性緑内障発作を起こし、瞳孔が広がった事により、濃い青に見えた可能性と、瞳の色が薄かった人の瞳孔が広がり、黒い眼に近くなり、青く見えたという二つの事が考えられています。

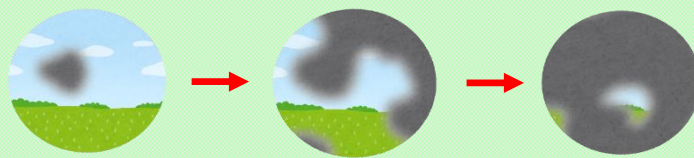


日本では緑内障のこと別名「青底翳(あおそこひ)」と呼んでおり、「底」は眼底(眼の奥)を表し、「翳」はかげと読みます。眼底に障がいがあって見えなくなる(暗くなる)事を意味しています。

緑内障は40歳以上の日本人の20人に1人が罹患していると言われています。しかしそのほとんどは自覚症状がなく、症状を自覚する頃にはかなり進行している事が少なくありません。

緑内障で失われた視野は元に戻る事はありません。

しかし定期的な検査を行い適切な治療を行う事で、視野の進行を抑える事ができます。



初期

中期

後期

※緑内障の視野障害の進行イメージ

健康診断や人間ドックで緑内障の疑いや指摘をされた場合には、一度眼科を受診しましょう。

